



全国大会の会場の様子 (遠野市)

全国地名研究者大会は11月15、16日の2日間にわたって岩手県の遠野市で開かれた。遠野といえば民俗学者・柳田国男の「遠野物語」の舞台となった所として有名で、過去2回この地で大会が開かれている

アイヌ語地名 東北にも 南北の文化が交り合う場所

全国地名大会
遠野市で開く

熊本乃地名

ニユースレター

発行者 熊本地名研究会
木崎康弘

発行所 松野国策書

2日目のエクスカージョン(小旅行)は、早池峰神社などを回る「遠野・花巻」、三陸

報告もあつた。

また、地元で活動している2人からの実践

報告もあつた。

2日目のエクスカージョン(小旅行)は、早池峰神社などを回る「遠野・花巻」、三陸

報告もあつた。

また、地元で活動している2人からの実践

報告もあつた。

また、地元で活動している2人からの実践

報告もあつた。

また、地元で活動している2人からの実践

報告もあつた。

また、地元で活動している2人からの実践

報告もあつた。

また、地元で活動している2人からの実践

報告もあつた。

また、地元で活動している2人からの実践

報告もあつた。

富英氏)

◇其調講演「遠野における郷土研究の歩み

―伊能嘉矩・柳田国男・萩野善を結ぶ―(日

本地名研究所「地名と風土」編集長・小田

富英氏)

海岸に出る「住田・高田」、遠野近郊を回る

「遠野・来内」の3コースに分かれてのバ

スツアー。期間中、クマの出没情報に振り

回されながらも、結局クマに出合うことな

く、寒さもそれほど厳しくなく、晩秋の「み

ちのく」の旅を楽しんだ。

柳田に影響を与えた

伊能の郷土研究手法

伊能(1867-1925)は人類学者

であり、民俗学者であり郷土史家でもあつ

た。東北地方で広く信仰されている「オシ

ラサマ」を手始めに、遠野の文化や歴史を

幅広く、系統立てて研究し、その成果を主

に「遠野史叢」という冊子にまとめ発表し

てきた。伊能の研究は遠野だけでなく、遠

く日本統治下の台湾の先住民の生活文化

にも及び、いわば郷土学ともいえるべき学問

の基礎をつくった。また、伊能は研究の中

で「閉伊地名考」(注：閉伊(へい)は遠野

を含む郡名)を著し、遠野地方にある地名

の大半はアイヌ語で説明できるとした。

こうした伊能の研究を高く評価したの

が民俗学者の柳田国男(1875-196

2)。柳田は生前2度ほど伊能と会つてお

り、話は尽きなかったという。郷土愛に立

脚した郷土研究、常民の歴史に真摯に向き

合つた伊能の名を不朽に伝えるべきだと

も言っている。中でも、伊能が郷土研究で

行つた分類、分析手法が柳田に与えた影響

は見逃せない。伊能の手法にヒントを得た

柳田は、民俗学の分類方法として2点をあ